

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100666		
法人名	(有)ヒューマン・ケア・ステーションみえ		
事業所名	グループホーム こんぺいとう		
所在地	三重県桑名市星見ヶ丘6丁目919番地		
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 1 日	評価結果市町提出日	令和4年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470100666-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 10 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「地域の中でゆとりある人生をあなたらしく」をみんなが目につくところに掲げています。利用者のそれぞれのペースにあった生活を提供しています。家族、利用者の願いや希望を踏まえどのような支援が適しているのかを考えながら日々模索しています。最近では介護度1の方も増えました。以前より利用者同士の会話もあちらこちらで聞こえています。建物も木のぬくもりが随所に感じられあたたかさが伝わってきます。バリアフリーになっている為、歩行訓練等のリハビリができるようになっていきます。お風呂も広くリフト付きのシャワーキャリーの導入で安全性が強化しました。安心した生活が提供できるよう専門職として支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域と支え合う関係づくりの為の工夫や家庭的な雰囲気が随所にみられるデイサービスが併設された、2階建てのグループホームである。高齢者福祉・地域福祉に永年情熱を注がれている運営者の熱い思いで、『こんぺいとう』と名付けられたグループホームである。代表者と経験豊富な管理者・スタッフは事業所の理念『地域の中でゆとりある人生をあなたらしく』を大切に、利用者の尊厳を尊重した支援がなされている。家族や主治医の協力の下、和やかなゆとりのある優しい介護がなされている。誰もが自分らしく地域で暮らし続ける社会を目指してケアの拠点となるように活動されている、ますます楽しい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆとりある人生をあなたらしく」の理念を共有スペースにはり誰もが目につくようにしている。利用者がそれぞれにあったペースを重視し、自宅での生活とかわりないような暮らしを提供できるよう日々取り組んでいる	利用者一人ひとりのペースに合わせたその人らしい生活が過ごせるように、どんな事でも個別支援をして、何事も無理強いはいしない様に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域のイベントに参加していたが、コロナでイベントが中止になっている。回覧板や広報等で地域の様子を熟知している。清掃は利用者の参加が難しく、職員が参加している。子供SOS表示を掲げている	自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加していたが、現在はコロナ禍で色々なイベントは中止になっている。事業所には『子供SOS表示』が掲げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議はコロナ感染拡大に伴い、事前に議題等を知らせ書面にて報告をおこなっている。自治会長や民生委員の方々とはメール等でもやりとりをおこなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議がコロナ禍の為、前もって議題を知らせて書面にて状況報告、身体拘束廃止適正化等を報告している。自治会長や民生委員の方々とはメール等でもやりとりをおこなっており、意見交換している	2か月に1回開催されていた運営推進会議は、コロナ感染拡大に伴い、事前に議題を書面にて自治会長や民生委員に報告し、またメール等でも意見交換するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは市の各種委員会に参画している為、窓口と情報交換している。管理者は分からないことは市の窓口に出向いて担当者に聞くよう努めている	法人の代表は、桑名市からいくつかのメンバーに委嘱され、市の介護高齢福祉課の職員との関わりは密に取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進委員会で身体拘束適正化を実施している。地域の協力体制もあり、夜間以外は鍵をかけるケアに取り組んでいる。オンラインの講習会に出席したり、ミーティングでの話し合い、書面などで理解を深め取り組んでいる	以前は運営推進委員会で、身体拘束廃止適正委員会を実施していたが、コロナ禍で開催できていない。夜間以外は鍵をかけるケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンラインの講習会に出席したり、ミーティングで公表し、議題として取り上げ、話し合いを設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身近な見識者に自立支援や後見制度の事を学び、日頃の介護につなげている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面において十分なかつ丁寧に説明を行い、疑問等を聞いている。契約時等でなくともいつでも周りの職員に聞くことができるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今は玄関先での面会になっているが、訪問も多く日頃の様子を伝えている。その中で意見や不満などなんでも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。介護計画の更新時などには電話で意見等を聞いている	請求書を月1回送付する際、利用者一人ひとりの様子を職員の言葉を添えて説明している。また介護計画の更新時には介護支援専門員から電話などで、家族からの意見要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は同施設にいる為、いつでも意見を聞き、話し合いができるようにしている。ノートを活用して職員全員が意見や提案を書きいち早く活かすようにしている	職員全員参加のグループミーティングは3ヶ月に1回開催し、常にコミュニケーションがとれる体制である。浴室に導入しているリフト付きシャワーキャリーは、職員の提案から実現したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に立ち寄り、スタッフの状況を把握し、現状をいち早く察知し、必要とあれば面接など随時、相談に応じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者福祉・地域福祉に経験豊かな代表者や管理者がスーパーバイザーとして勉強会を開催したりしている。職員のキャリアや能力に応じた研修内容はミーティングや書面などで報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会などに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通が難しいなかで寄り添い話すことや、家族との話しのなかでヒントを見い出しながら、本人の意思を大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも密に連絡をとりながら安心してもらえるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が希望されていることと、利用者の状態等から、事業所の支援できることを考え、十分な話し合いで対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の中で人生の先輩でもある利用者者に教わることも多く、ひとつ屋根の下で暮らす家族同然の関係を築いている。一緒に食事をとり、洗濯ものをたたんだりと関わりを持っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族の方へ本人の近況報告の手紙を送ったり、日頃撮った写真等を送ったりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各個人の部屋には、昔撮られた写真や家族の方の写真などが飾られている。それらを見ながら談笑し思い出を引き出すよう努めている	現在は外出が出来にくいので、室内の写真や通院時等に見た車窓からの桜を話題にしたり、思い出話に花が咲くような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や思いを踏まえた上で、しやすい居心地のよい場を提供している。利用者同士で話しをしている時の雰囲気も気にしながら、時には会話の中にも入っていくなどその時々で見守るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、経過を把握し、引き続き相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で思いをくみとり、可能な限り希望に沿う様に努めている。家族から聞くこれまでの生活歴を踏まえながら要望等は介護記録等に記入し、職員間で共有している。	利用者の表情や顔色などで思いや意向の把握に努め、可能な限り希望に沿うよう検討するようにしている。入浴時などゆっくりと思いや希望を聴き、業務日誌に記入して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで自宅で使用されていた馴染みの家具や思い出の品、家族の写真を置き、これまでに近い生活環境を提供できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歌を唄ったり、ぬり絵などの工作をしたりする方、お昼寝をする方、テレビを見る方など、人それぞれであるが決して無理強いすることなく、心身状態も把握しながら、一人ひとりにあった過ごし方を提供している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者会議を開き意見を交換し、見直しを図っている。家族とも連絡をとり意向や思いを聞き取ったうえで、それも踏まえながら利用者にあった介護計画を作成している	利用者ごとに担当者会議を開催して、見直しをしている。月に1回のミニカンファレンスでモニタリングを行い、医師の意見は訪問診療時に聞き、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に気づいたことなどを明記し、1日の流れがわかるように共有している。勤務の引き継ぎの際には漏れがないよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望や状況に応じて通院等には柔軟な個別支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の写真や広報をみたりして談笑をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月2回の往診があり連絡を密にとっている。かかりつけ医に受診している方は家族が付き添っている。急変時にも協力医とは24時間連絡がとれるようになっており指示を仰ぐことができるような関係性になっている	事業所の協力医がかかりつけ医であり、隔週の訪問診療がある。従前からのかかりつけ医としている利用者には、家族が付き添って受診している。かかりつけ医とは何時でも相談できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師(非常勤)が利用者の状態をみて把握しており、何かあったら連絡がとれるようになっている。又、同じ敷地内のデイサービスの看護師や協力医の看護師とも電話連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の連携室の方と連絡をとったり、退院時のカンファレンスに立ち会うこともある。退院後、安心して生活ができるよう連絡をとりながら努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において終末期の意向は確認している。状態によって家族、主治医とも相談しながら、説明した上で納得してもらい終末期の同意書等を交わしている。職員間で情報を共有し、主治医や家族の協力を得ながら努めている	利用者が重度化した場合は看取り指針に基づき、看取りの事前確認を行い、家族からの同意書を得るようにしている。看取りに関するマニュアルもあり、それに基づいて介護計画を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法を受講している。緊急時の対処は勉強会を行い、手順を定めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。コロナ禍の為に近隣の住民の参加は見送っている。地域の避難訓練にも参加し、協力体制が得られるよう働きかけている。夜間想定での避難訓練もしている。	建物は耐震構造なので、ホームの外へ避難するより一部屋に集まり、まとまる避難訓練を行っている。消防署の指導も得て、玄関に拡声器を置き、有事の際は近隣にも知らせられるように地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者をさん付けで呼んでいる。言葉かけもやさしく対応するよう心がけている。他の利用者に聞かれたくないことや見られたくないことを理解しプライバシーを損ねないよう支援している	利用者一人ひとりの尊厳を大切に日々介護に努めている。利用者の居室には名前のプレートなどはつけないで、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と常に寄り添い、語り合うことで思いをくみ取る。最初から職員が促してしてもらうのではなく、何かをするときも本人から聞き取って始めるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念「・・・あなたらしく」を念頭に置き暮らしの支援が日々行われている。お昼寝をしたい人、居室でゆっくり過ごしたい人などは誘導したりと利用者優先で考え支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がその人にあつた髪型になるよう談笑しながら散髪している。洋服もなるべく本人に選んでもらうよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、違うものを提供したりしている。お盆拭きなどできることを一緒にしている。職員は利用者と同じものを食べ、食事中は一緒に味わい会話を楽しんでいる	デイサービスとグループホームの職員2名で、管理栄養士の献立を基にして手作りの食事に力を入れている。豊富なラインナップから鰻・栗ご飯・桜餅・魚の刻み食も魚の形にして、出汁もしっかりと食事を楽しみごとになるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューをもとに季節の食材や利用者の食べたい物も考慮しながらバランスのよい献立を提供している。食事の形態や量、塩分指示がでたときなど、利用者一人一人の状態に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯の洗浄、歯磨き、うがいを施行し、口腔内の残留物の確認を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を決めずそれぞれにあった時間でトイレ誘導を行い排泄を促している。日中はトイレで排泄できるよう支援を考えてトイレへ誘導している	利用者一人ひとりの排泄パターンをきちんと把握して、日中はトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する利用者の支援もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとってもらっている。歩行練習や体操をしている。はっている場合などには入浴時やトイレ誘導時にお腹のマッサージを施行している。主治医にも相談をして指示を仰いでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2、3回の14時～16時に利用者の心身の状況や気分も考慮しながら入浴してもらっている。本人が洗ったりできることはしてもらっている。湯船につかっている時間はまちまちで本人の状態も見ながら支援している。	浴槽は大きく、浴室も坪庭を有しており、広く明るい造りである。入浴は週2から3回午後心身の状況、その時の気分、希望に合わせて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝も必要に応じて取り入れ、就寝時の空調も快適で眠れるよう適温に設定している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報リストやミーティングで職員が理解することで、体調の変化を察知し、素早い対応につなげている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などから、出来る事、得意なことや興味のある事などを把握し、それぞれがその場その場で出番が発揮できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この1年ほどはコロナ禍の為、外出、外食、散策が困難であった。お寿司のテイクアウトや車窓での桜見物、裏庭にあるスペースで過ごしてもらい少しでも季節を肌で感じてもらえるよう支援している	利用者の希望を把握して、裏庭にある素敵なスペースで過ごしたり、車窓からの桜見物など少しでも季節を感じられるように支援している。	コロナ禍で、利用者一人ひとりの希望に沿っての外出支援が行うことが出来ない状態が続いていたが、日常的に気を付けながら外出支援が行われることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は見えない。家族の方が必要に応じて出されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している方もみえ、分からないときは使い方を支援している。手紙も家族の方から届いたりする場合、本人に渡し、読むことが困難な場合は職員が読んだりして支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体の空調や換気は整備され、高齢者の生活に配慮が行き届いた共有空間である。季節の草花が随所に置かれ季節を採り入れている。座り心地の良いソファーや椅子を置き居心地が良く過ごせる工夫をしている	建物全体に空調が整備されており、居心地よく過ごせる工夫をしている。特にトイレは掃除が行き届いており、清潔を保持し、高齢者の生活空間として配慮が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファーや椅子を置き、利用者同士が語り合い、思いやりの持てる場所を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族も泊まれるスペースもある居室には、利用者一人ひとりの使い慣れたものや以前に本人が作成した作品等が置いてある。本人の時間を大切に、又、今までに似た生活ができるよう支援している	広さはそれぞれ差があるが、洗面台・クローゼット等が設置してあり、利用者一人ひとりの好みのものが持ち込まれ、その人らしい居室になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は木造で落ち着きとぬくもりが感じられ、フローアはバリアフリーになっている。廊下を歩行や手すりですクワットをされる方もみえ自立した生活をおくることができるよう支援している		